



会長 長 互
小沼 郁

初
夢

2026年の年頭にあたり



発行所
小名浜まちづくり
市民会 議
TEL: 52-1275
発行日
令和8年1月15日

あけましておめでとう
ございます。令和8年
午の年が幕を開けました。
市民会議は「まちづく
りランドデザイン」の
アクションプログラムに
沿って活動を進めていま
す。昨年はその中から、
市が実施した「トークシ
ェアミーティング」と連
携しあるべき小名浜の姿と
公共施設のあり方にア
プローチしたり、まちな
かのコミュニティ交通の
実証実験開始などの成
果を挙げることができま
した。それを踏まえ、小
名浜地区選出の市議や
県議との懇談や市議会
各会派への要望の提出
、いわき市との情報共
有も進めて参りました。
各委員会活動も陣容を
変え、まちなかコンサ
ートの実施や広報紙の
毎月発行、WEB発信、「
小名浜の今昔看板」の
設置、会員交流事業を
実施しました。

冬には「小名浜ブルー」
を合言葉にアクアマリン
パークにイルミネーショ
ンを設置、中学校や高等
学校の吹奏楽部の演奏
、キッチンカーや各種
店舗が出店する手作りの
クリスマスイベントを開
催しました。イオンモ
ールへ投影されるプロ
ジェクションマッピング
と相まって、臨海地区
の冬の賑わい創りが定
着してきました。

加えて、令和8年に小
名浜開港70周年を控え
、開港の父とされる小
野平翁をシンボルとし
る歴史伝承事業も継続
しました。各活動に対
して、会員の皆様はも
とより関係各位のご協
力に心より御礼申し上
げます。
2026年は「私たち
が住みたいまち」を創
り上げていく為、「アク
ションプログラム」に
優先順位を付け、会の
運営を進めて参ります。
昨年前進のあった「
コミュニティ交通」「
市民サービス機関の集
約」「スタジアム誘致」
を踏まえ、新たな小名
浜の姿を見据え、と
賑わいづくりという視



点をもち、アクアマリン
パークへの年間来場者
500万人を目指した港
湾エリアの賑わいづく
りと機能強化を中心
に、夏と冬のイベン
トを生かしながら、
小名浜地区の賑わい
が広がるまちに届く
ように、関係機関と
連携し、できること
からコツコツと活動
を進めます。

市民会議は、個人会
員150名、企業会員
100名、団体会員10
名の260名で組織
する団体に成長しま
した。この会が小名
浜地区の皆様の声
を代表するわけ
にはありませんが、
会員数はある意味
で「想いを一つに
する市民の姿の
見える化」です。
また、異業種に携
わる人々の集合で、
まちの未来像の多
角化と具現化が
できる「アイデア
ア」と「行動力」
の源泉です。昨年
以上に会員数を
増加させ、より
多くの皆様の声
をまंचづくりに
活かせる持続
可能なまちづく
り団体を目指
して参ります。
今年もご支援
のほど、よろ
しくお願い申
し上げます。



11月
全体議
と公共施設住民アンケートの実施

トークシェアミーティングの記録

昨年11月26日、まちづくりステーション小名浜にて全体会議が開催されました。

いわき市施設マネジメント課の3名と東京都立大学助教授の讃岐亮先生が、「小名浜地区トークシェアミーティングの記録」と題して講演しました。

「トークシェアミーティング」は公共施設再編を視野にまちのあり方を語り合う場で、4回開催されました。講演では、参加者から出された意見やアイデアが報告されました。個別の公共施設などを明示しなかったことで自由な意見が出され、住民によるまちづくりの視点で気軽に立ち寄れる交流の場や、地区内を移動する交通の利便性、地元住民と観光客向けの情報発信の充実、施設を活用した新しいイベント企画などを通じて、住民・

観光客双方が楽しみながら快適に過ごせるまちを求める声があったということです。

今後の課題として、公共施設の老朽化が進む小名浜地区において、この企画で得た住民の声を参考に「地域の魅力を地元で満喫できる、ふだん使いの小名浜」を提供できるように検討を進めたいとのことでした。

トークシェアミーティングのファシリテーターを務めた讃岐先生からは、立場に関係なく参加者が自然に對話できる場を提供した珍しい企画と評価した上で、行政だけで地域を考えるのは難しいが、市民の意見交換により公共施設を「まちの一部」として捉える姿勢が共有されたこと、この手法は市内他地区でも応用できる可能性があり、いわき市独自の取り組みとしての深化を期待することが語られました。



▲講師を務めた
讃岐助教授

施設マネジメント課では、小名浜地区の住民の声を公共施設再編の検討材料の一つとして広く収集するために、無作為抽出によるアンケートを今年度中に実施する予定とのことでした。

小名浜港朝市

昨年11月22日、「第1回小名浜港朝市」が、小名浜荷捌き・加工流通倉庫で開催され、早朝から多くの人が訪れました。朝7時の開始でしたが、早くに来た方は6時前から並んで待っていたとのこと。

小名浜水産加工業協同組合、小名浜機船底曳網漁協、福島県漁連の共催での初開催となり、賑わいの朝となりました。去年竣工し、何枚もの大漁旗が飾られた倉庫の中で、地元加工業者の方々に

よるサンマのポーポー焼

12月
全体議
『出来る前に色々考えよう』

グループトーク

昨年12月8日、まちづくりステーション小名浜にて全体会議が開催されました。

「出来る前に色々考えよう」をテーマに、グループトークを行いました。

いわきFCスタジアムの建設候補地が小名浜になったことから、会員の皆さんが4人1組で、「こんなスタジアムになった方がいいな」「こんな施設があるといいな」など色々な意見を円卓に書き込みながらトークシェア

きやかまぼこ、干物にメヒカリの唐揚げやアンコウの切り身などが販売されました。人気は、小名浜魚市場女性部による「サンマのつみれ汁」で、500食が無料で振る舞われました。

女性部の方たちの話によると、前日に生のサンマでつみれを作り、当日大鍋にネギとつみれを入れ味噌で味付けをしたとのこと。お母さんたちの活気ある姿に元気をもらい、寒さも飛んでいってしまうほどでした。

今後、第2回を開催予定とのこと。日時は未定ですが、これからますます盛り上がりつついきそう

していただきました。冒頭、いわき市創生推進課の植野氏より、これまでの経緯や協議会の進め方などについてお話がありました。

オプザーバーとして小名浜海星高校の生徒4名にも参加いただき、参加者は約50名。和んだ雰囲気で行い、30分と短い時間でしたが、各グループの円卓はびっしりとアイデアが書き込まれていました。

2031年に完成予定



のスタジアムですが、今回の意見を全て取り込むことはできないまでも、小名浜に住んでいる方が居心地いいまちであること、そしていわき市に住む人の自慢のサッカーチーム、スタジアムになることを願います。



ですね。

小名浜まちづくり
市民会議とは...

小名浜に住む人、小名浜を心から愛する人、小名浜を輝かせたいと思っている人々が集まり、関係機関・団体と協働で小名浜のまちづくりを進めている団体です。

人力戦艦!?
汐風澤風
YOUTUBE
配信はこちらから



会員募集

小名浜まちづくり市民会議では随時、会員募集しています。学生さんも、働くお父さんも、子育てに励むお母さんも、年齢は問いません。皆さんと一緒に素敵な未来の小名浜を創りませんか?

年会費 個人会員：3000円 企業会員：30,000円 団体会員：12,000円

お問い合わせ・お申し込みは：いわき市小名浜字本町 11-1 (まちづくりステーション小名浜)

TEL：52-1275 FAX：52-1415

http://www.onahama.jp/ E-mail：info@onahama.jp



©小名浜まちづくり市民会議／福島ガイナックス

この広報紙は、小名浜地区行政嘱託員（区長）連合会の御協力により配布しております。